

# かほく ワークシート

## 問題

①若き日の野村克也さんが苦手なカーブを克服できたのは、何をしたからですか。簡潔にまとめて答えましょう。

( )

②「感じる力」とはどのようなことですか。野村さんの言葉から答えましょう。

( )

(中学生／朝の会前の10～15分)

答えは24日の朝刊に



野村監督といえは「データを重視した「ID野球」とも言われていますが、たとえば膨大なデータを持っていたとしても、そこから問題点や改善点を見つけ出すには「敏感に感じる心」が必ずや要です。感性和研究が組み合わせる「野村野球」だったのだと思いました。

(日本新聞協会NIEアドバイザー・仙台市高森中教諭 木下晴子)

## 出題者から

## ノムさんの知恵

「考えるな、感じろ。言わずと知れた映画『燃えよドラゴン』の名せりふ。今年生誕80年を迎えるブルース・リーさんふるする武術の達人が、少年と競りの稽古をするシーンで出てくる。極意は「目の前に集中しなければその先にあるものを見失ってしまう」。感性の大切さを説く。

「人間の最大の悪はなんだか知ってるか？それは鈍感だよ」

東北楽天監督時代、野村克也さんも相通じること言っていた。「たとえば『感動』って感じて動くって書くだろう。感じるからこそ思考や行動が生まれてくる

## 「鈍感」は人間最大の悪

「感じて、考える」手順を踏むのが野村流。原点となった出来事が南海(現ソフトバンク)の現役時代にある。

若き日の野村さんはどうにもカーブが苦手だった。打席で「カーブの打てないノム・ムラ」とヤジを受け、悔しい思いをしていた。ある時カーブ攻めする投手を見つめていると、打球時の手首の動きに微妙な癖があると気づいた。この観察眼でカーブを克服すると、投手との駆け引きで優位に立つことも増えた。

当時最先端だった16ミリフィルムで録画した打球映像をすり切れるほど見た。「神様、仏様、稲尾様」と恐れられた名投手稲尾和久さん(元西鉄) 攻略につなげたこともある。

「感じる力とは変化を敏感に捉え、変化の本質をつかむこと」とよく言っていた。未知のウイルスに振り回される今の世相なら、どんな感覚を覚えたのだろうか。

(金野正之)  
＝随時掲載＝

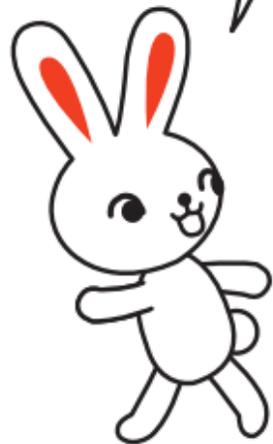


1970年4月、通算450本塁打を放つ野村さん。現役時代は相手投手を研究し尽くして球界を代表する打者となった。＝後楽園

(2020年5月13日朝刊)

## 【かほくワークシートの模範解答】

23日の  
答えだよ



①若<sup>わか</sup>き日<sup>ひ</sup>の野<sup>の</sup>村<sup>むら</sup>克<sup>かつ</sup>也<sup>や</sup>さん<sup>が</sup>苦<sup>にが</sup>手<sup>て</sup>なカ<sup>か</sup>ーブ<sup>ぶ</sup>を<sup>を</sup>克<sup>こく</sup>服<sup>ふく</sup>できたのは、何<sup>なに</sup>をしたからですか。簡<sup>かん</sup>潔<sup>けつ</sup>にまとめて答<sup>こた</sup>えましよう。

(カ<sup>ぜ</sup>ーブ攻<sup>とう</sup>めをする投<sup>とう</sup>手<sup>しゅ</sup>の微<sup>び</sup>妙<sup>みょう</sup>な癖<sup>くせ</sup>に気<sup>き</sup>づき、観<sup>かん</sup>察<sup>さつ</sup>して攻<sup>こう</sup>略<sup>りやく</sup>したから)

②「感<sup>かん</sup>じる力<sup>ちから</sup>」とはどのようなことですか。野<sup>の</sup>村<sup>むら</sup>さん<sup>の</sup>言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>から答<sup>こた</sup>えましよう。

(変<sup>へん</sup>化<sup>か</sup>を敏<sup>びん</sup>感<sup>かん</sup>に捉<sup>とら</sup>え、変<sup>へん</sup>化<sup>か</sup>の本<sup>ほん</sup>質<sup>しつ</sup>をつかむこと)